

グローバル・サウスがガザの大量虐殺を糾弾 ニカラグアは「ファシスト」イスラエルと断交、 ラテンアメリカはパレスチナを支援する

ベン・ノートン

ゲオポリチカル・エコノミー 2024年10月12日

<https://geopoliticeconomy.com/2024/10/12/genocide-gaza-nicaragua-fascist-israel-latin-america/>

グローバル・サウスの中で、「ガザでパレスチナ人へのジェノサイドを犯している」と非難し、イスラエルとの断交する国が増えている。

国連の専門家たちは、「ジェノサイドの基準が満たされたと信じるに足る合理的な根拠がある。ユダヤ人入植者は長年にわたり、パレスチナ人抹殺と植民地的プロセスを積み上げてきた。ガザでの大量虐殺は、その最も極端な段階である」と述べている。

科学専門家は、イスラエルによるガザでの絶滅戦争によって18万6000人のパレスチナ人が死亡すると見積もっている。これは200万を越える人々が暮らすガザ地域のおよそ8%に相当する。

イスラエルの極右財務大臣ベザレル・スモトリッチは、次のように主張した。「ガザに住む200万人のパレスチナ市民を餓死させることは「正当で道徳的である」。しかし彼は、国際社会がそれを許さないだろうと認めざるを得なかった。

グローバル・サウス、国際司法裁（ICJ）のジェノサイド裁判を支持

南アフリカは 2023 年 12 月、ハーグにある国際司法裁判所（国連の最高法的機関）に提訴した。「イスラエルがジェノサイド犯罪の防止及び処罰に関する条約に基づく義務に違反している」という訴えである。ニカラグアは 2024 年 1 月、南アフリカ対イスラエルの裁判に参加した最初の国である。

同じ月、ICJ はイスラエルがジェノサイドを犯したという訴えが「可能性が高い」“plausible” との判決を下した。そして、イスラエル政府に対し、パレスチナ人に対する殺害と被害の発生を停止するよう命じた。

その後、アムネスティ・インターナショナルは、「イスラエルはハーグの裁定を遵守するための最低限の措置さえ講じていない」と抗議している。

それ以来、コロンビア（4 月）、リビア（5 月）、メキシコ（5 月）、パレスチナ（5 月）、スペイン（6 月）、トルコ（8 月）、チリ（9 月）、モルディブ（10 月）、ボリビア（10 月）などが南アフリカとニカラグアの ICJ 提訴に正式に加わった。さらに数十カ国が、主にグローバル・サウス（南半球）の国々であるが、イスラエルに対する ICJ 提訴への支持を公に表明している。（提訴への参加はしていない）

ニカラグア、イスラエルとの外交関係を断絶

2024 年 10 月 11 日、ニカラグアはイスラエルとの国交を正式に断絶したと発表した。この決定は、「ファシストであり戦争犯罪人であるイスラエル政府が、パレスチナの人々に対して続けている、残虐な大量虐殺の開始から 1 周年」に抗議する行為であると声明に記した。

そして「イスラエル政府による継続的な大量虐殺、残虐行為、極度の憎悪、絶滅を非難する。そして自由、主権、独立、自己決定国家としてのパレスチナ国家の創設のために、すべての国連決議の遵守を改めて要求する」と述べた。

ニカラグア政府は次のように警告した。「イスラエルによるパレスチナ人に対する大量虐殺は、「現在、レバノンの人々に対して拡大しており、シリア、イ

エメン、イランを深刻に脅かし、地域と世界の平和と安全を危険にさらしている」

ニカラグアは、左派政党の「サンディニスタ民族解放戦線」（FSLN）によって統治されている。FSLN は、1979 年にアメリカの支援を受けた右派独裁政権に対する革命で政権を握った。FSLN は長い間パレスチナ解放闘争を支援してきた。

ラ米の左翼政権はパレスチナを支持し、右翼はイスラエルを支持する。

ラテンアメリカでは、ボリビアのように、2023 年 10 月の開戦直後にイスラエルとの正式な関係を断ち切った国もある、キューバとベネズエラの社会主義政権は、もともとイスラエルと外交関係を結んでいない。

ブラジル、チリ、コロンビア、ホンジュラスの進歩的な政府は、イスラエルの残虐行為に抗議して、イスラエルから大使を引き揚げた。

ラテンアメリカの左派政権が自由、民族解放、主権を求めるパレスチナの闘争を支持する一方で、この地域の右派政権はアメリカとイスラエルとほぼ同盟を結んでいる。アルゼンチンのハビエル・ミレイ大統領は特にそうだ。政権獲得後の最初の外遊先はイスラエルで、ミレイはベンヤミン・ネタニヤフ首相の過激派政権への全面的な支持を表明した。極右のアルゼンチン大統領は、ガザで「イスラエルは過ちを一つも犯していない」と叫んだ。

イスラエルのトップ紙、「ネタニヤフ政権はファシストだ！」と報道

ラテンアメリカの左派政権はイスラエルをファシストと非難しているが、それは単なる極論的な侮辱用語ではない。

イスラエルの主要紙ハーレッツでさえ、ネタニヤフ政権をファシストと評する記事を数多く掲載している。「ファシズムはここに生き残っている」と、イスラエルの主流ジャーナリスト、ヨッシ・クラインは 2022 年に書いている。

2023年10月、ガザに対する大量虐殺戦争が始まる前に、ハーレツの記事は警告した。「イスラエルにおけるネオ・ファシズムの台頭は、イスラエル人とパレスチナ人を深刻に脅かしている」

2024年、ハアレッツは警告した。「イスラエルのファシスト政権を批判する左翼ジャーナリストは反逆罪で逮捕される可能性がある」と。国内の右翼過激派は、左翼を処刑するよう求めた。

ハーレツは、「イスラエルのニューヨーク・タイムズ」とも呼ばれる。リベラル・シオニスト系の新聞であるが、「イスラエルの政治が右傾化し、イスラエル政府にはネオナチの閣僚がいる。それは本当に1933年のドイツを思い起こさせる」と書いている。

ニカラグア国会がガザでの大量虐殺を非難する決議

2024年10月11日、ニカラグアの国民議会は「パレスチナ人民と連帯する特別セッション」を開催した。この立法機関では、ほとんどの議員が左派のサンディニスタ戦線に所属している。彼らは下記の決議を強く承認した。

「イスラエルのシオニスト政府がパレスチナ人民に対して行っている大量虐殺を非難する」決議

世界は1年以上も、イスラエル政府と軍隊が、英雄的で栄光あるパレスチナの人々に対して行っている大量虐殺の証人となってきた。この組織的破壊は76年前に始まり、ずっと続いてきた。そして2023年10月からは、42,000人以上の命を奪ってきた。犠牲者は主に女性、子供、高齢者だった。

シオニズムとその同盟国は、その傲慢さ、残酷さ、極度の憎悪を罪のない家族に押しつけ、病院、学校、家屋などの民間インフラを容赦なく爆撃する。このような残忍な行為は、殺人だけでなく、生活の破壊によって、住民を荒廃させ

る。イスラエル政府の蛮行は、ジェノサイド、人道に対する罪、民族浄化政策を構成する絶滅戦争という明確な姿勢を反映している。

ガザでの大虐殺は、間違いなく 21 世紀で最も憎むべき残虐行為であり、歴史上最悪のものである。そして人類史上最悪の残虐行為のひとつである。

この蛮行にもかかわらず、西側諸国政府を支配する世界寡頭支配層と、人権を擁護するはずのメディアや国際機関は、パレスチナ人の苦しみと破壊の真の姿を隠している。

人類の敵であるイスラエル政府は、中東全域にその蛮行を拡大し、世界の平和と安全を脅かそうとしている。そのすべてが、北米帝国とヨーロッパ帝国の共謀と後方支援、軍事支援によるものである。彼らは犯罪者シオニスト政権が犯した殺人と残虐行為の真の責任者である。

私たちニカラグア人は、自由と正義を愛し、奴隷と臣従の命令に逆らったニカラオ族長、ディリアンヘン族長、アディアック族長の歴史が残した足跡を、心に、魂に、血に刻んでいる。（いずれも欧州から来た支配者と戦った先住民指導者）

アンドレス・カストロ、ホセ・ドレス・エストラダ、ルベン・ダリオ、ベンハミン・セレドン、アウグスト・C・サンディーノ、ブランカ・アラウズ、リゴベルト・ロペス、カルロス・フォンセカの魂を引き継いでいる。（独立以来イギリスやアメリカとの戦いを率いた英雄たち）

彼らは、反帝国主義的な思想と解放的な行動によって、平和、主権、自決、そして国家間の連帯を守るよう私たちを鼓舞する。

彼らの思いと行動を引き継ぐ我らは、国際的な場で、このような絶滅政策を非難し、パレスチナとこの地域の平和を常に求める。私たちは、国際司法裁判所の場で、シオニスト・イスラエル政府による国際法違反、人権侵害、国際人道法違反を告発する。

私たちは、パレスチナの人々との歴史的な同胞の絆を再確認する。

私たちは、極悪非道なシオニスト政府と軍隊による虐殺、蛮行、犯罪の停止を要求する。我々は、自由、主権、独立、自決の国家としてのパレスチナ国家の創設のために、すべての国連決議の遵守を改めて要求する。

今私たちは、イスラエル政府によるパレスチナ人民に対する残虐で、犯罪的で、残酷な行為に直面している。ニカラグア国民議会は、和解・国民統合政府に対し、ベンヤミン・ネタニヤフ首相による大量虐殺シオニスト政府との国交断絶を検討するよう、謹んで要請する。

パレスチナに自由を、世界に平和を

マナグア

2024年10月11日.